

天気のみカタ

甲子園名物「浜風」

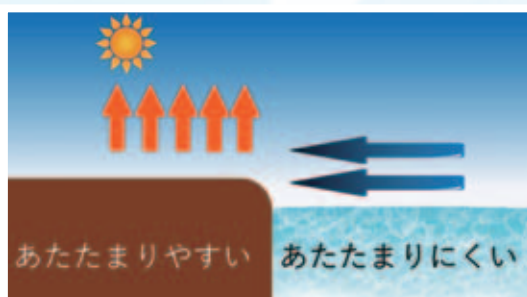


さかした えり
坂下 恵理

NHK総合「列島ニュース」、NHK大阪放送局「ニュースほっと関西」気象予報士・気象キャスター・防災士・健康気象アドバイザー
茨城県日立市生まれ。フェリス女学院大学卒業。大学卒業後、NHK福島放送局にて昼前の情報番組のキャスター・リポーターを担当。2011年、東日本大震災に遭い、気象予報士に。2012年からBS1で、2014年からNHK大阪放送局で、夕方のニュース番組「ニュースほっと関西」の気象情報を担当。2020年から大阪放送局発「列島ニュース」で全国の気象情報も担当。



甲子園球場



上：海風 下：陸風

阪

神タイガースの本拠地でもあり、高校球児の憧れの場所、「阪神甲子園球場」。去年は新型コロナウイルスの影響で中止となったため、ことしの春のセンバツ高校野球は二年ぶりの開催でした。これまで以上に球児の躍動する姿が印象に残りました。

甲子園球場で行われる試合の実況の中で、「浜風」というフレーズがしばしば聞かれます。

試合を左右することがある風のため、浜風を意識して試合に臨む選手もいるようです。その正体は、「海陸風」です。海陸風は、昼夜で吹く方向が反転する風で、

口も離れておらず、海陸風が起きやすい場所なんです。

では、なぜ昼夜で風向きが反転するのかというと…それは海と陸地では陸地のほうがあたたまりやすく、かつ、冷めやすいことが関係しています。

日中、晴れた日は、日ざしによって海よりも陸地のほうがあたたまっていきます。暖かい空気と冷たい空気では暖かい空気のほうが軽い性質があります。このため、あたためられた陸地の空気は軽くなり、空高いところに上昇していきます。ただ、それでは陸地の上の空気が少なくなってしまうので、それを補うために、海の上の空気が陸地へと流れ込んでくるんです。その海から陸地への空気の移動がいわゆる風、海風です。

一方、夜、日が沈んでからは陸地のほうが冷えやすいため、海の上の空気のほうがあたたかいこととなります。すると海の上の空気は軽くなり、空高いところに上昇していきます。それを補うため、陸地の上の空気が海の上へと流れ込みます。この陸地から海への空気の移動が、

日中は海から陸地に向かって吹いていた風が、夜になると、反対に陸地から海に向かって吹く風になるというものです。日中の海からの風を「海風」、夜の陸地からの風を「陸風」といい、合わせて「海陸風」です。阪神甲子園球場の浜風は、このうち海風のことを指します。風向きは南西または西南西で、ライト側からレフト側に向かって吹きます。

晴れた日、阪神甲子園球場のバックスクリーンに掲げられる旗がレフト方向になびいているときは、浜風が吹いているサインです。海陸風は海に近い地域で起こります。阪神甲子園球場は海から二キ

陸風です。海と陸地の温度が変化することにより、日中と夜とで反対の風が吹くんです。

温度の変化が大きいほど、風は強くなります。夏、強い日ざしが照り付け、気温の上昇が大きい日は、海風、阪神甲子園球場でいう、浜風は一段と強く吹きます。気温の上昇と関係するため、強まる時間は一日でも気温の高い時間、午後三時前後です。夏の全国高校野球では、第三試合が多くなります。

今年は二年ぶりに夏の全国高校野球が開催される予定です。炎天下の中白熱した試合を繰り広げる球児にとって、浜風はどんな風になるのでしょうか。

